

**主題**  
「平和を実現する人々は幸いである」マタイによる福音書5章9節

**基本方針**  
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する

**組織の課題**  
若い会員を増やし、意志決定機関に25%以上の若い会員を入れる

**運動の課題**  
1.憲法改悪を阻止し、第9条を世界平和の礎にする  
2.「核」廃絶と、自然エネルギー活用の運動を推進する  
3.子どもの権利を守る  
4.女性への暴力の問題に取り組む

# YWCA 10

OCT. 2006

発行所 日本キリスト教女子青年会  
〒102-0074  
東京都千代田区九段南4-8-8  
Tel. 03-3264-0661  
E-mail. office-japan@ywca.or.jp  
編集発行人 青木恵子

振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)  
定価 150円  
年間購読料2,200円(送料込)

[www.ywca.or.jp](http://www.ywca.or.jp)



## 静岡 YWCA

### ノーマ・フィールドさん講演会 平和な国で生きたい —日本のそしてアメリカの女性は今



大阪YWCA青少年部ゲンキッズ(ドロンコ)  
秋のドロンコ収穫祭 (2006/9/6-17)  
ゲンキッズ(ドロンコ)では、今年は1年をかけてお米作りにチャレンジしています。5月にみんなで植えた稲は、「ドコたろう」と名付けられた田んぼですくすく育って、立派に実りました！  
11月に行われる予定の試食会が待ち遠しいです。(大阪YWCA 中山羊奈)

21回目となる静岡YWCAのピースフェスティバルは、「自衛隊イラク派兵差止請求」が敗訴になったにもかかわらず「異議申立行動を誇りにしています」という彼女たちの言葉を大切にして、戦争反対を見える形にすべきと結ばれた。

また、アメリカ社会は日本社会より定義づける人がずっと少ない現状で、ベトナム戦争後、徴兵制度から志願兵制度に移行し、マイノリティの人たちが大学進学や報酬のために兵士となり、反戦運動がしにくくなったという。イラク問題も徴兵制度だったら違う展開を見せたかもしれないとも語られた。

日本には平和憲法のもと、アメリカでは考えられない「平和」に対する強い希求と意志がある。最近その運動に響けが見られるのはなぜか。沖繩の知花昌一さん・靖国合祀拒否をした中谷康子さん・元長崎市長本島等さんらの言葉を支持する彼女は、世界に誇る宝である平和憲法を具体的行動で守るべきこと

紹介。15人の日本人女性による「自衛隊イラク派兵差止請求」が敗訴になったにもかかわらず「異議申立行動を誇りにしています」という彼女たちの言葉を大切にして、戦争反対を見える形にすべきと結ばれた。

また、アメリカ社会は日本社会より定義づける人がずっと少ない現状で、ベトナム戦争後、徴兵制度から志願兵制度に移行し、マイノリティの人たちが大学進学や報酬のために兵士となり、反戦運動がしにくくなったという。イラク問題も徴兵制度だったら違う展開を見せたかもしれないとも語られた。

日本には平和憲法のもと、アメリカでは考えられない「平和」に対する強い希求と意志がある。最近その運動に響けが見られるのはなぜか。沖繩の知花昌一さん・靖国合祀拒否をした中谷康子さん・元長崎市長本島等さんらの言葉を支持する彼女は、世界に誇る宝である平和憲法を具体的行動で守るべきこと

## 釧路 YWCA

### 受けそこねた大人のための性教育講座 子どもに語りかける力をもつ

子どもたちは、成長の過程で悩み、反発して自立していきま。その中で「人権と性」の問題は「生きること」であり、避けて通れない大切なことです。親として、地域のおじさんおばさんとして、子どもたちに何を伝えればよいかを学び実践することをテーマに「ゆるろCA」をすすめる会、主催 YWCA 共催「受けそこねた大人のための性教育講座」子どもに語る力をもちつ」の講演会を、8月20日開催しました。講師は「CAPL」の代表、性教育・人権教育ネットワーク「地域と家庭と学校」代表・竹内未希代さん。

子どもたちは、成長の過程で悩み、反発して自立していきま。その中で「人権と性」の問題は「生きること」であり、避けて通れない大切なことです。親として、地域のおじさんおばさんとして、子どもたちに何を伝えればよいかを学び実践することをテーマに「ゆるろCA」をすすめる会、主催 YWCA 共催「受けそこねた大人のための性教育講座」子どもに語る力をもちつ」の講演会を、8月20日開催しました。講師は「CAPL」の代表、性教育・人権教育ネットワーク「地域と家庭と学校」代表・竹内未希代さん。

### 本の紹介

「歴史の狭間を生きる」  
李仁夏著  
日本キリスト教団出版局  
2200円＋税

本書は在日大韓基督教教会川崎教会牧師・NCC議長その他次々と貴重な働きをされ、YWCAも長年お世話になってきた李仁夏牧師の感動的な自伝である。植民地下の朝鮮半島に生まれ、10代で渡日。恩師との出会いから受洗する。さまざまな事情からの在日牧師としての一生はまさに「歴史の狭間を生きる」もの、それ故にこそ私たちにこの間の日本の、アジアの、世界の激動の歴史を見せてくれるものである。それはまた、実に豊かな他者との出会いの物語であり、その底に導きの手を感じずにはられない。今、戦中から戦後への日本の歩みを考える上でも、ぜひお薦めしたい一書である。(渡辺孝)

本書は在日大韓基督教教会川崎教会牧師・NCC議長その他次々と貴重な働きをされ、YWCAも長年お世話になってきた李仁夏牧師の感動的な自伝である。植民地下の朝鮮半島に生まれ、10代で渡日。恩師との出会いから受洗する。さまざまな事情からの在日牧師としての一生はまさに「歴史の狭間を生きる」もの、それ故にこそ私たちにこの間の日本の、アジアの、世界の激動の歴史を見せてくれるものである。それはまた、実に豊かな他者との出会いの物語であり、その底に導きの手を感じずにはられない。今、戦中から戦後への日本の歩みを考える上でも、ぜひお薦めしたい一書である。(渡辺孝)

### 「100周年記念国際平和プログラム—ひろしまを考える旅」DVD販売のお知らせ

2005年8月に実施した上記プログラムのDVD。旅の様子が生き生きと伝わる大変貴重な記録です。平和教育やYWCAの広報活動にも適しています。また、これから参加を考えている方にも参考になります。ぜひご活用ください。  
DVD販売の収益は日本YWCA平和教育資金となります。

※「旅の記録」バージョン(120分)  
※「ヒロシマのここを世界に」バージョン—ダイジェスト(22分) + 「被爆証言」(134分)  
価格は共に1000円。お問合せは日本YWCAまで  
<撮影・制作をして下さった高橋馨さんのご協力に心から感謝します。>

2007年世界YWCA総会チャリティイベント「ケニアを学ぼう」  
講演会とケニア料理の夕食会  
日時：11月23日(木)17時～19時半  
場所：ケニア大使館  
講演会：ケニアの友たち  
講師：ケニア大使夫人(予定)

参加費：4,500円  
人数：先着50名  
申し込み：10月10日(火)まで  
お問合せ：日本YWCA(会本部)  
\*石内容には、状況により変更する場合があります。

「100周年記念国際平和プログラム—ひろしまを考える旅」DVD販売のお知らせ

2005年8月に実施した上記プログラムのDVD。旅の様子が生き生きと伝わる大変貴重な記録です。平和教育やYWCAの広報活動にも適しています。また、これから参加を考えている方にも参考になります。ぜひご活用ください。  
DVD販売の収益は日本YWCA平和教育資金となります。

※「旅の記録」バージョン(120分)  
※「ヒロシマのここを世界に」バージョン—ダイジェスト(22分) + 「被爆証言」(134分)  
価格は共に1000円。お問合せは日本YWCAまで  
<撮影・制作をして下さった高橋馨さんのご協力に心から感謝します。>

「非暴力」を聞く、甘く非力な印象を受ける▼しかしそれを願うだけではない主眼するのは、急流の中に打ち込まれる杭となり、立ち続けることにも他ならない▼それを支える信と力の源は一体何だろう▼今、この国は底の浅い言葉のショーの前に再び易々と身を委ねるのか▼私たちの揺るぎない土台はなに？(K・I)

「非暴力」を聞く、甘く非力な印象を受ける▼しかしそれを願うだけではない主眼するのは、急流の中に打ち込まれる杭となり、立ち続けることにも他ならない▼それを支える信と力の源は一体何だろう▼今、この国は底の浅い言葉のショーの前に再び易々と身を委ねるのか▼私たちの揺るぎない土台はなに？(K・I)

# キング牧師の非暴力思想の今日的意義



梶原 寿  
(かじわらひさし 中部学院大学教授)

去る6月30日、前日(ブッシュ大統領と日本首脳会談を終えた小泉純一郎前首相は、大統領夫妻に伴われて年来の宿願であった「ロッキン・ローレルの王(キング)」、エルビス・プレスリーの旧邸テネシー州メンフィスの「グレースランド」に足を運び「夢がかなった」喜びを隠し切れず「サングラスをかけギターを弾く真似をして、右手を高く上げ、プレスリーのポーズをまねて見せた。この様子は米国のTVだけでなく、わが国のTV報道でも大きく取り上げられた。

私はこのことについて自分が主宰している「日本M・L・キング研究会」の会報(34号)に、彼の大統領との共同記者会見での言葉「Thank you very much, American people for "Love Me Tender."」(アメリカ国民のみならず、ありがたう。「わたしを優しく愛してくれて」という言葉にひっかけてその「軽さ、空しさの印象は否定すべくもない」と書いた。

その時私の念頭には、メンフィスにあるもう一人の「キング」M・L・キング牧師の終焉の場所、ローレン・モテル(現在の国立公民権博物館)のことがあった。迎える大統領の側にも訪れる首相の側にもこの存在がまったく意識されていなかったことを指摘したかったのである。しかしこの後者の点についてはその後、ある読者の指摘によって首相官邸ホームページには、ローレン・モテル2階ロビーに立つ二人の写真を共に「首相はグレースランド訪問後、公民権指導者キング牧師の暗殺の場所国立公民権博物館を訪れた」との説明が載っていることが確認された。

だがそれ以上のコメントはまったく首相の口から発せられることはなかった。むしろ「小泉首相はこうしてその予定された会談と活動を終えて帰国の途に着いた」という淡々とした後続の文章が、いつそその空しさを増幅していた。

つまり前首相にとってはそれほど可哀な非暴力運動の歴史の展示も、このたびの訪米の記憶の重要な一里塚とはまったくならなかったのである。彼がかつて知覧の特攻兵の遺品や写真の前で涙した「感動」となんと対照的であったことが。

彼がこの問いの前で呻吟したのは、非暴力の主張の「普遍性」の問題である。国内で非暴力を説く者は、国外問題でも非暴力を説かなければならない。だがこの普遍性に徹する時、骨の髄まで暴力の体質が浸潤していた国家体制の壁の前に立たなければならぬ。かくして彼は非暴力の使徒として殉教の道を歩まなければならなかったのである。「自ら招かざる苦難は贖罪の意義を持つ」——これは彼がああワシントン大行進における「私には夢がある」演説の中で述べた言葉であるが、彼が非暴力の普遍性を探求した結果到達した結論でもあった。

今日世界はまさに「暴力連鎖」の袋小路に陥ってしまっ、イラクでも中東でも、さらに新たに北朝鮮とイランでも、自らは勝手な「単独行動主義」(unilateralism)に走りながら、他者に「疑似普遍主義」に他ならないグローバル主義を押しつけるブッシュ政権にすると引きずられていく。国立公民権博物館を一瞥しただけで通り過ぎるを得なかつた小泉前首相の後を、私たちはこれからも追隨していいのだろうか。

## 剣を上げず

### 熊江雅子

被爆61周年の今年8月、原爆投下の原点である広島の水原禁世界大会と、日本YWCAも賛同団体である「劣化ウラン兵器禁止を訴える国際連合」に参加した。「ウラン兵器禁止を求め国際連合」は、03年ベルギーで平和活動家や専門家が集まり設立された。劣化ウラン兵器は、湾岸戦争に続きイラク戦争でも大量に投下されており、その深刻な被曝の現状と人体や環境への影響についてはイラクの医師や科学者からの報告があった。

しかし、米国やイラク政府、そして被爆国である日本政府さえも、多発する小児白血病・先天障害・癌などの原因が劣化ウランの放射線被曝であることとの関連性を認めようとはしない……とは許せない。

8月末、米国は通算23回目となる臨界前核実験を実施した。この暴挙への抗議として、私たちは核兵器廃絶を誓った長崎平和祈念像の前で怒りの座り込み集会を行った。他国の核兵器開発疑惑には経済や軍事制約をも辞さないとしながら、自国の核兵器維持のためには実験を繰り返す米国の「ニューヨークの国連本部前で、「彼らは剣を打ち直して鈍とし、槍を打ち直して鈍とする。国は国に向かつて剣を上げずもはや戦うことを学ばない」(イザヤ書2章4節)と記した大きなモニュメントを見たことが忘れられない。米国の核生存政策は「老朽化で2040年までに寿命を迎える核弾頭を、単純で堅牢な新型弾頭に置き換える」などと核軍縮どころか予算を倍額にしている。アメリカの戦略に迫従する小泉前政権は、憲法を改悪し、日本を戦争のできる国へと導く政策を積極的に進めてきた。今、新たな核軍拡の気配が強まり、人類破滅の危機を抱えていることを再認識したい。地域YWCAの会員としては、日本YWCA 100年の歴史を直視し、女性の視点で、「ノーマ・ア・広島、ノーマ・モア、長崎、ノーマ・ヒバクシャ」と、反戦・反核・非暴力を訴え、怯まず、世界の平和構築へ向かつて前進する、日本YWCAであることを期待している。

(長崎YWCA会友)

# 非核・非暴力による 平和の構築を求めて

## —夏のプログラムより



中国・韓国・日本のYWCAメンバーが出席したピースメーカーミーティング



沖繩・辺野古の基地移設反対テントにて

### 名古屋YWCA女性委員会企画

## 沖縄ー基地問題と豊かな文化を感じる旅

「公的暴力と私的暴力が現実の問題として沖縄では日常的に起こっている。2006年1月に日本YWCAで行われたプログラム「ネットワークをひろげよう」脱暴力と女性の「人権」の高原錦代さん(沖縄YWCA会員)、「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表)のお話に大きな衝撃を感じ、名古屋YWCA女性委員会では8月21日・24日に沖縄研修を実施しました。

名古屋YWCA女性委員会では女性に対する暴力について取り組んでいます。私たちは、暴力は構造的な支配・被支配の関係であり、ドメスティックバイオレンス、セクシャルハラスメント、性暴力のような個人的な暴力と、戦時下や紛争下などの女性への公的暴力は共通するものと考えています。これまで、暴力被害者の支援や、一般への啓発活動として女性への暴力についての講演会やワークショップなどを実施してきました。今回の沖縄研修では、文献や資料から学ぶのではなく、実際に沖縄の地に触れて戦争や基地から女性への暴力にどう被害を被ってきたかを心で感じるのが大きな目的でした。

2日目の「辺野古の基地移設反対テント」では平良修牧師の説明文のなか、真っ青な美しい海と基地との境界の鉄条網の対比に違和感を覚え、反対運動をされている方の熱意に感銘しました。3日目は普天間基地を一望する「嘉数の高台」で映像や新聞から見るものとは違う、戦争や基地から被害の現実を感じました。基地は女性だけではなく、沖縄の住民に大きな影を落とし、暮らしを脅かしていることを実感できました。また、改めて沖縄の地で高里さんより軍人による女性への暴力などのお話を聞き、一人ひとりが感じたことを心に刻み、ネットワークを広げることができた研修であったと思います。

沖縄の豊かな文化や自然を感じることも今回の研修の目的でありました。沖縄YWCA大城美代子さんには紅型染めを教えてください。また、沖縄YWCAとの交流会では地元Yの料理を堪能しました。最終日は首里城や南部のひめゆり塔などを見学し、牧志市場では沖縄の珍しい食品の買い物を楽しみました。悲惨な過去をもつ沖縄。いろいろな大きな問題が生活の中にある沖縄。美しい海の沖繩。豊かな文化の沖繩。おいしい沖繩料理。名古屋から14名、関東から5名、関西から3名、年代も20代から80代と幅広く、感じたことは22人22色だと思います。

一人ひとりが感じたことを心に刻み、ネットワークを広げることができた研修であったと思います。

### 若者の活躍が光った

## ひろしまを考える旅2006

中学生を中心に総勢77名の旅は、中国・韓国YWCAからのゲストを引き続き迎えることが出来たことも含めて、昨年の成果を感じとれるうれしい旅となりました。そのいくつかを中心に報告します。

今年に参加者の中にはフィンランド・エストニア・タイ・マレーシアからの留学生がいました。朝の集いでは、フィンランド語とエストニア語の祈りに導かれて、私たちの心の中を一つにしました。タイとマレーシアの留学生のお話は、太平洋戦争中の日本の侵略に触れたものでしたが、同世代の外国人の口から語られる、同世代の日本人の心の中にも深く届いたのではないのでしょうか。単に多国籍の参加者を集めたというのではな

く、彼らの働きによって、ヒロシマを考える新たな視点、まことに自然な形で与えられたのは意義深いことです。全体として若者の活躍が目立ちました。まずは、碑めぐりで広島女学院がガイドを務める中、高生がガイド役を務めてくださったこと、碑に込められた祈りをていねいに学び、自分たちの言葉で伝えようとする真摯な姿勢を感じました。何より、喜びをもってガイドする姿が印象的でした。大学生ボランティアの活躍は特筆に価するものです。プログラムの諸連絡や話し合いにおけるリード、中高生への細やかな気配りや裏方の仕事と、生き生きとした彼らの動きが、今年の旅の活力源だったといってもよいでしょう。

ボランティア以外の大学生も熱心で、たくさんのかたちを感じ取りたい、感じたことをどうしたら表現出来るかしらと悪戦苦闘する姿がとても素敵でした。核軍縮平和と教育ワークショップでは、ビビー弾の音を聞いて感じ取って表現することを通じて、「感じる」意味を考えました。今後その「旅」は、想像力や共感する力を大切にすることもであり続けたいと思います。このワークショップは運動課題推進委員会「核」廃絶チームの協力で実現しましたが、これも昨年の成果です。

フットジャーナリストの森住卓さんによる、多数の写真を用いた核汚染報告は、思わず息を呑むほど衝撃的でした。この報告を通じて61年前と現在をつなげることができました。多くの方のお支えに感謝します。

### 日中韓YWCA

## 東北アジア ピースメーカーミーティング

今回「ひろしまを考える旅」に引き続き、8月12日・13日、日本・中国・韓国・日本YWCAメンバーが集い、初めて東北アジアピースメーカーミーティングを開催した。この会議が開催された背景には、昨年の100周年記念国際平和プログラム「ひろしまを考える旅」からの提案がある。広島に来て、原爆の事実・核の脅威などを知ってもらうだけでなく、日本からも中国・韓国に赴いて学ぶ機会を作りたいという提案を受け、今回は、各国代表の3人に「ひろしまを考える旅」に参加してもらい、そのあと会議を持った。中

国からは北京YWCAの副会長と若いスタッフ、上海YWCAのスタッフ、韓国からは常任委員、学生YWCAの会長・副会長、日本側からは会長をはじめ、実行委員9名のメンバーが参加した。

初めに中国・韓国・日本それぞれから、東北アジアの平和についての課題と私たちにできることを発題した。中国Yからは「現在、靖国や教科書の問題などがあるが、日本の中に反対している人たちもいるというところを知っている。そこに希望を見出す。私たちの交流が大切であり、そのあとと会議を持った。中

韓国のYからは「韓国に住んでいる外国人妻のサポートプログラムを開始した。その人権の面で日本と協働したい」との発題がなされた。また、日本からは「韓国や中国を訪問し、加害の歴史を見つめ、未来に向けたプログラムを開けないか」という提案をした。

その後、日韓・日中の二つのグループに分かれ、話し合った。日韓においては、現在行われている日韓青年交流プログラムなどを通じて、滞日・滞韓外国人の人権について取り上げていくこと。また、韓国訪問の可能性について検討してもらうことにな

った。北京Yの副会長からは、まもなく北京Yにホテルが完成するので、その時を捉えて、ぜひ訪中プログラム実現に向けて、たとえ一人の参加者だとしてもチャレンジすることが大事であるとの積極的な意見を頂いた。また、日本も「ひろしまを考える旅」に継続して招く可能性をさぐることを意見として出した。3YCAとも、それぞれ帰国後も連絡を取り合うことを確認された。これは、韓国Y・中国Yの方々に礼拝を担当して頂いたこと。言葉の壁を越えメッセージが心に響き、お互いに多くの問題を抱えながらも、折りにおいて一致した思いを与えられた。日本にとって韓国・中国は、

中学生を中心に総勢77名の旅は、中国・韓国YWCAからのゲストを引き続き迎えることが出来たことも含めて、昨年の成果を感じとれるうれしい旅となりました。そのいくつかを中心に報告します。

今年に参加者の中にはフィンランド・エストニア・タイ・マレーシアからの留学生がいました。朝の集いでは、フィンランド語とエストニア語の祈りに導かれて、私たちの心の中を一つにしました。タイとマレーシアの留学生のお話は、太平洋戦争中の日本の侵略に触れたものでしたが、同世代の外国人の口から語られる、同世代の日本人の心の中にも深く届いたのではないのでしょうか。単に多国籍の参加者を集めたというのではな

く、彼らの働きによって、ヒロシマを考える新たな視点、まことに自然な形で与えられたのは意義深いことです。



アメリカ合衆国大統領 ジョージ・F・ブッシュ様  
駐日アメリカ合衆国大使 J・トーマス・シーファー様

### 未臨界(臨界前)核実験に対する抗議と再実験中止を求める要望書

貴国政府が8月30日午前11時(日本時間31日午前3時)にネバダ実験場で通算23回目の未臨界(臨界前)核実験「ユニコーン」を実施したことに対して、強い憤りをもって抗議します。

今回の実験は「核兵器の信頼性を維持するのに不可欠な情報を得るため」と説明されていますが、これは貴国が核兵器を持ち続ける姿勢を示すものであり、2000年NPT再検討会議において全会一致で採択された、核兵器保有国が核兵器廃絶を達成するという「明確な約束」に反するものです。

日本YWCAは1970年以来「核」否定の思想に立つ」を掲げて、世界の人々と平和の内に共存するためにあらゆる核実験の中止と核兵器・放射能兵器の廃絶を求めて活動しています。

その立場から、私たちは、他国への核拡散の危険についての警告や非難には積極的にある貴国が、核兵器廃絶を求める国際世論の声に真摯に耳を傾け、未臨界核実験をはじめすべての核実験を中止し、核軍縮の実現に向けて真のリーダーシップをとるよう強く要望致します。

2006年9月12日

日本YWCA  
会長 青木恵子  
総幹事 川端国世

### 2泊3日のこの旅を通して、私はこれまで以上に第2次世界大戦のことを学びました。

戦争では、いつも罪のない一般の人々が殺され、家々が破壊されます。私はこれまでも放射能で人が死ぬこと、それが今も続いていることを知っていました。この旅に参加するまでは、「それが戦争だもの、しょうがないよ」と考えていました。今、私は自分が戦争というものを知らなすぎたと気づかされました。戦争で苦しみ、命を落とした人たちに申し訳なく思います。私がおのれたちだたらどうでしょう。その人たちの味わった苦しみはどんなだったでしょう。

本当にこの旅に参加できて感謝しています。この旅を通して、私たちが当たり前と思っていることの意味を知ることが出来ました。そういったことは、学校の教科書は教えてくれません。YWCAがこれからもよい働きを続けられることを心から願っています。

捜真女学校高等学校2年生  
キンバリー・リン・シェン・ツェト(マレーシア出身)  
(訳・寺嶋公子)

### 日本は戦後61年。

でも本当に戦後と呼べるのだろうか。61年前に終わった戦争によっていまだに苦しんでいる人はたくさんいる。そして、世界中ではたくさん地域で戦争が起こっている。自分の国が、自分だけが良ければいいのか? 利益を得ることに、どれだけの魅力があるのだろうか? お金・お金・お金…。そんな汚い世界は嫌だ。

戦争がない世の中、平和な世の中が存在すればどんなにいいだろう。同じだけの時間、それはいいことにも悪いことにも使える。それなら私はいいことに使いたい、楽しいことに使いたい。

みんなが笑える時間にした。でも、それを決めるのは、人それぞれの心の中にある。一人ひとりが、自分に与えられた時間を、笑って、幸せに過ごすことのできる世の中が平和な世界だと、私は思う。

同恵社大学2回生 池辺涼子



「はっきり言うておく。私の兄弟であることも小さいもの一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」

(「マタニ」による福音書25章40節)

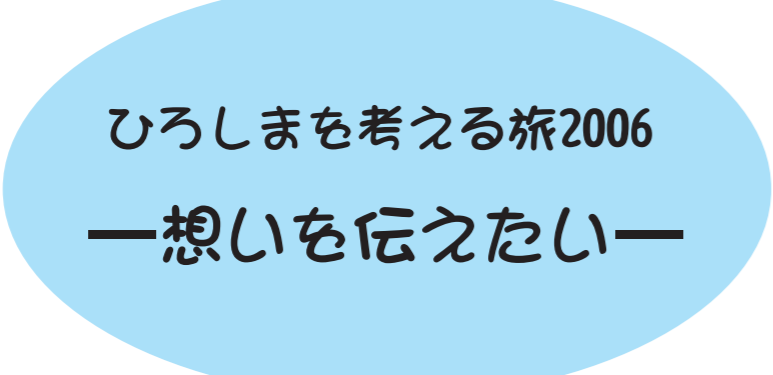
今回示された聖書の箇所は、私が外国籍の人たちを支援する現場で、時々思い起こすところです。女性たちの相談にのりながら、決して満足できる結末にならないことがあります。例えば、夫の暴力から解放されたいはずなのに夫のもとに帰ってしまう女性があります。私たちが相談にのり、心のケアをしていると思っても、女性たちが孤立感に落ち込んでいることがあります。

女性たちは、さまざまな不安をいつも持っています。困っても頼る人がいないことや、言葉の不通のために周りの人たちがうまくコミュニケーションが取れないこと、また父親がいない子をもつ母親は外国籍のために学校でいじめにあうのではないかなどと悩んでいます。大人子どもとも安心して日本社会で生活するには、当事者を孤立させないきめ細やかな地域の支援の手が必要で、「一人で悩まないで」と言葉をかけるだけでも、女性たちを勇気づけ、励ますことが出来ます。イエスは、このような私たちの小さな行為を、私にしたことだと語ってくださいます。



広島女学院中学校YWCAの皆さんによるハンドベル演奏

和は世界人類の願いです、平和は永久の課題です、平和は美しい花のようなものです。世界の人々が共に育て養っていききたいものです。私は美しい花の一つになりたい、平和は豊かさを含みます。立場の違い・見方の違い、理解の仕方が違います。ですから、平和の交流の必要性を認識すれば真の平和が訪れる。私はこの様な交流を願います。北京YWCA副会長 孟雁君(訳・張悦)



### 自殺者の多い日本。私も時々生きることが面倒になります。

ただけでは感じられないものがいっぱいあって、被害者の方の話は特にそでした。一瞬にして火の海となった町、水を求めて喉、人の形をしていない人々。そのような話が史料館で見たものと重なってよりリアルになりました。想像するとそれはまさに地獄だと思いました。その中にも人々は生きようと必死だったと聞きます。生きたいがため、麻酔なしで足を切った少女の話がありました。今の私にはそれが信じられなくて、もしそれが私なら死に逃げるでしょう。彼らには現代人間にはない人間らしい強さがあると思います。本来それは当たり前で本能のようなものだと思います。生きたいと切に望む人間が死に、死を望む私たちはなんとなく生きている、それって複雑です。私はどうすればいいのかわからなくなります。

一つだけ確かなのは、こんな私も楽しいことは大好きだということです。



恵泉女学園高等学校1年 武笠由美